

農作物技術情報 第7号 水稻

発行日 令和7年9月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 県内全域で刈取り作業が進んでいます。刈遅れは着色粒や胴割粒、白未熟粒の混入率を高めるので、速やかに刈取りを終えましょう。
- ◆ 倒伏したほ場では、コンバイン等の作業速度を遅くし、刈分けにより品質確保に努めましょう。
- ◆ 胴割粒の発生防止のために、丁寧な乾燥を心掛けましょう。
- ◆ わらの分解を促進するため、秋の早い時期に稲わらのすき込みを行いましょう。
- ◆ 日没が早まる時期なので、無理をせず安全第一の農作業を心掛けましょう。

1 県内の刈取り進捗状況

- (1) 刈取り始期（10%）は、平年より9日早い9月14日頃と推定されます。
- (2) 9月18日現在、県全体の水田の21%で刈取りが終了しており、地帯別では、北上川上流23%、北上川下流19%、東部23%、北部27%となっています。

表1 県内水稻の刈取り状況（9月18日現在、各農業改良普及センター調査）

	進捗率(%)			本年(月/日)			平年(月/日)			平年差(日)
	本年	R6	R5	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期
北上川上流	23	29	23	(9/13)			9/22	10/4	10/15	(-9)
北上川下流	19	27	21	9/15			9/23	10/2	10/12	-8
東 部	23	42	27	9/14			9/22	10/1	10/13	-8
北 部	27	22	19	(9/14)			9/26	10/5	10/17	(-12)
県 全 体	21	28	22	(9/14)			9/23	10/3	10/13	(-9)

- 1) 県全体…地帯別の水稻作付面積比による加重平均。
- 2) 刈取り時期…始期：10%、盛期：50%、終期：90% の水田で終了した日。
始期（括弧書き）は、9/18現在で未到達の市町村を含むため暫定値。
- 3) 平 年…平成27年～令和6年の10ヵ年の平均値。

2 品質確保に向けた収穫対策

- (1) 現在ほとんどのほ場で刈取り時期を迎えています。刈遅れは着色粒や胴割粒、白未熟粒の混入率を高めるので、速やかに刈取りを行います。
- (2) 倒伏したほ場では、コンバイン等の作業速度を遅くし、丁寧に刈取ります。また、水口付近など、周り比べて生育等が著しく異なる部分は刈分けし、玄米品質の均質化に努めます。
- (3) 例年10月には台風の発生が多い時期です。台風接近前は農作業安全に留意しつつ、可能な限り刈取りを終えるとともに、通過後は速やかに作業開始できるよう、排水対策を徹底します。

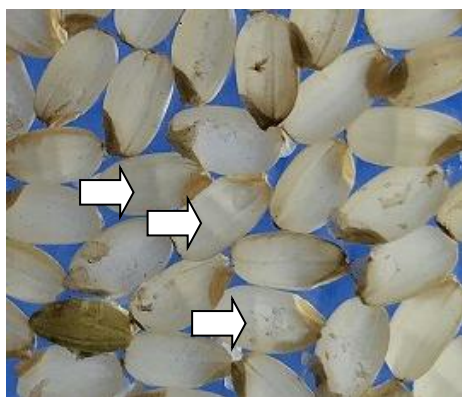


図1 胴割粒（矢印）



図2 乳白粒（矢印）

3 乾燥・調製の留意点

本年は出穂後10日間の最高気温が高く推移したため、胴割粒が発生しやすい登熟条件となっています。胴割粒の発生を防ぎ、玄米品質を確保するため、仕上げ水分15.0%以下を徹底し、丁寧な乾燥・調製を心掛けましょう。

具体的な留意点については、令和7年8月28日発行の「農作物技術情報第6号 水稻」を参照ください。

4 秋耕起（稲わらの腐熟促進）

- (1) 稲わらの秋すき込みは、春すき込みに比べわらの分解が進むため、入水後の「わき（硫化水素や温室効果ガスであるメタン）」の発生や窒素飢餓による水稻の生育抑制を軽減できます。わらの分解は、地温 15℃以上で促進されますので、秋の早い時期にすき込みできるよう、適期刈取りに努めましょう。
- (2) 稲わらの腐熟促進を図るための耕起は、5～8 cm 程度の浅耕とします。
- (3) 切りわら散布後、腐熟促進肥料（石灰窒素の場合、10a あたり現物 15～20kg）または家畜ふん堆肥（窒素換算で 5 kg/10a、発酵豚ふんや鶏ふんなど C/N 比が低いものが望ましい）を施用してすき込むことで、わらの分解が一層促進されます。
- (4) 湿田では、わらはたい肥化して施用することが望ましいですが、困難な場合は稲わら等のすき込み後、排水溝の設置などにより地表水の排除に努めましょう。

5 農作業安全

日没が早まる時期です。夕方に事故の発生が多いので、計画的かつ慎重な作業を心がけます。

- ・ ほ場での移動、運搬の際の転倒事故や車の追突事故に注意しましょう。
- ・ コンバインにわら等が詰まった際は、必ずエンジンを止めてから作業を行いましょう。
- ・ 夜光反射材や低速車マークを取り付け、路上走行中の追突事故を防止しましょう。

次号は10月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**忘れずに！点検・確認・安全管理
無事故で終える収穫作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。